

—鍼灸治療の技術研究 第8報—

尿管結石患者に発症する 鍼灸治療後の痛み

東京都 清野鍼灸整骨院

○吉川 佳輔, 吉田 卓司, 山田 昌紀, 村田 朝子, 清野 充典

【目的】

本学会において、鎮痛を目的とした鍼灸治療の症例報告は多くみられるが、鍼灸治療により痛みが生じる症例報告は数少ない。

今回、鍼灸治療により、尿管結石の排石が促進されることで発症したと思われる痛みの観察ができたので報告する。

【症例】

26歳 男性 身長:175cm 体重:85kg

【既往歴】

特記事項なし

【家族歴】

母:腎臓結石

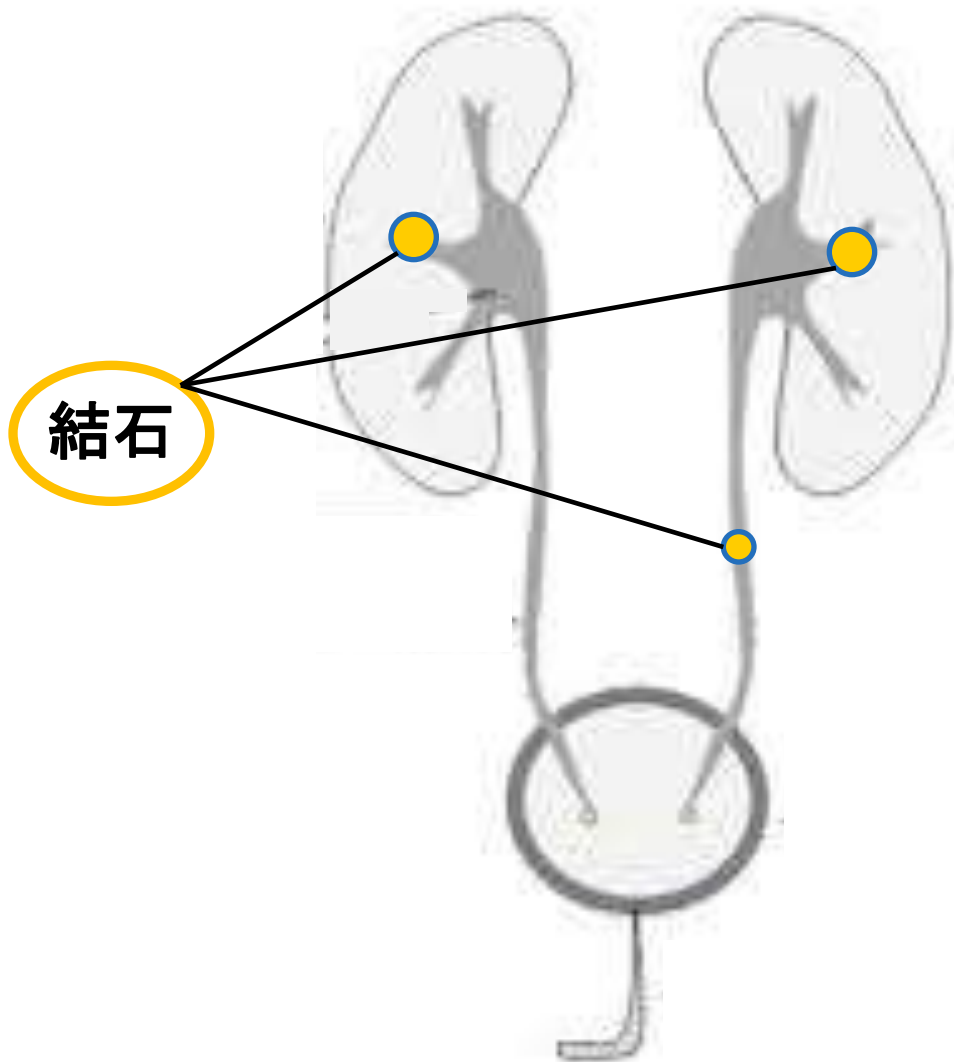
【現病歴】

X年10月15日、午前2時頃より左側腹部から腰部にかけて激痛が発症した。2~3時間続いた後、鈍痛へ移行し痛みが持続的となった。当日朝、血尿を排泄したため、当院を受診した。

【治療・経過】

- ・10月15日（初診日）、尿管結石と判断し、排石を目的とした鍼灸治療を施行
- ・10月21日まで、計5回鍼灸治療を行った
- ・10月22日、病院にてCT検査、レントゲン検査を受け、左右腎臓結石、左尿管結石と診断

【治療・経過】

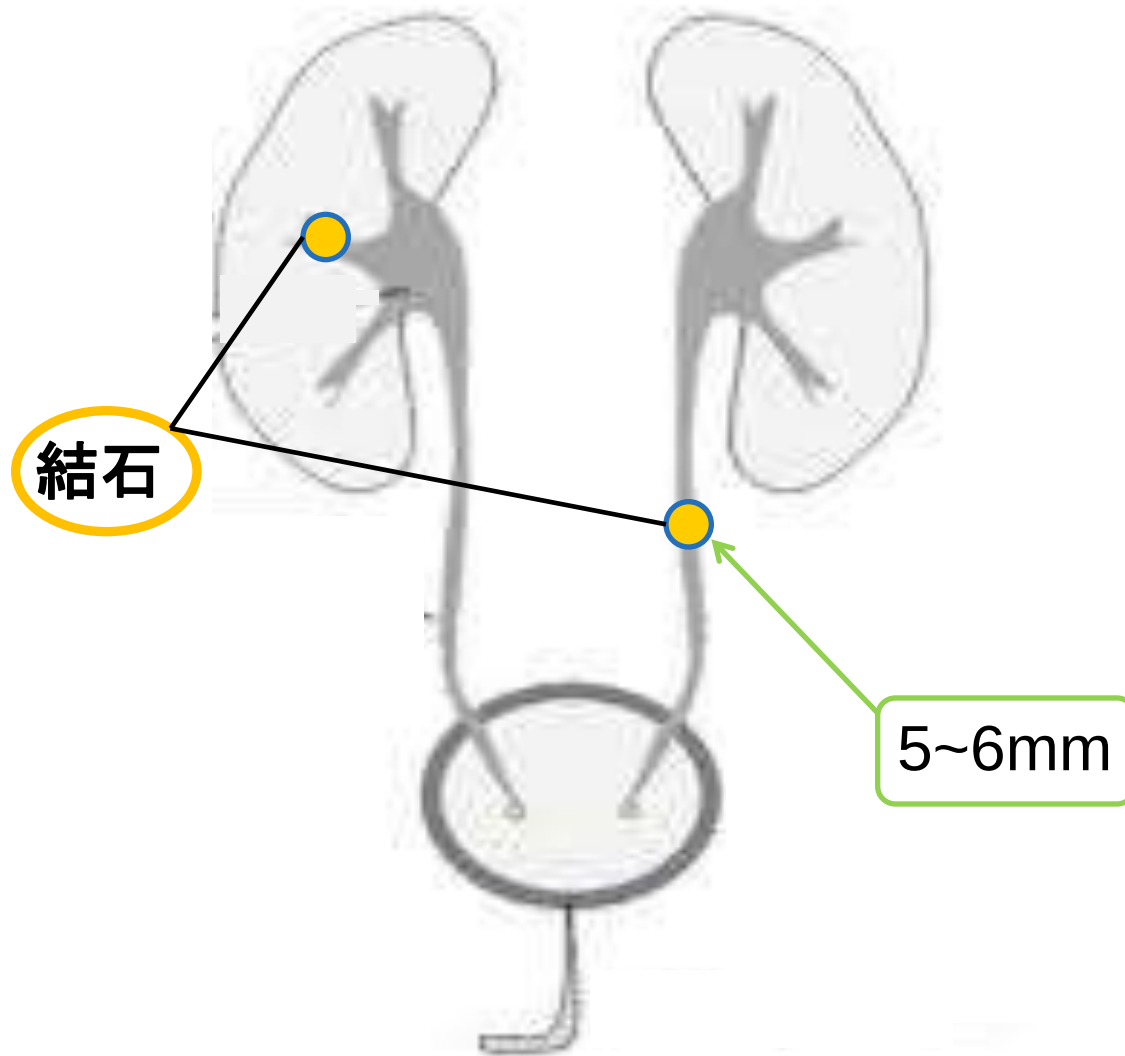


【治療・経過】

- ・10月23日～10月25日、毎日鍼灸治療を行った数時間後に激痛が発症
- ・10月26日、再度病院で検査
- ・右腎臓結石、左尿管結石と診断

☆左尿管結石の排石が確認

【治療・経過】



【治療・経過】

- その後鍼灸治療を行った際にも、激痛を数回発症
- 11月17日、本人が排石を確認

【考察1】

- ・鍼灸治療実施後、数時間後に激痛を発症することが多い
 - ・激痛は、腰部、側腹部、下腹部の順で、鍼灸治療終了後に発症する部位が移動
- ◎排石が促進され、尿管結石が移動し激痛が発症することが示唆

【考察2】

- ・結石が4mm以下の場合、鍼灸治療後の激痛発症頻度は少ない

◎結石が5mm以上ある場合は、鍼灸治療後の激痛が発症する確率が高くなると示唆

【結語】

尿管結石が排石される際、強い痛みを生じるが、結石が体内を移動する際にも痛みが生じることがわかった。排石を目的に鍼灸治療を行う際には、患者に治療後痛みが生じる可能性があることを、事前に説明する必要がある。